



札幌市立大谷地小学校 学校だより

令和7年(2025年)度 第8号

10月31日

学校 HP



大谷地

「読書の秋」は不易流行

学校図書館司書教諭 本間 かおり

暑い夏が過ぎ、十月にやっと涼しくなって「読書の秋」、そして冬の足音も聞こえてきましたね。ご家庭では、お子さんの読書の姿はありますでしょうか。最近は、紙の本だけではなく、電子書籍で小説や漫画などを読む人も増えています。情報収集をする際にも、私たちはインターネットでの情報収集という行為を覚えると、一つの事柄を調べるのに辞書や本をわざわざ開かずに、検索エンジンを利用することが多くなりました。それは「変わるもの」です。よりコスト・タイムパフォーマンスが良いものを選ぶことは、自然の流れです。

けれども興味深いことに、「紙」で読んだ本は電子書籍より、文学的文章（物語など）では記憶に残りやすい、という研究結果が得られています。今後は、ライフスタイルや目的に応じて、記憶に残りやすい紙の媒体と利便性の高いデジタルの媒体、2つの良さを生かし、使い分けていくことが重要です。自分に必要な方法を自身で取捨選択する力は、いつの時代も「変わらない」大切なものですね。小学校の成長著しい学齢期に、心に残る紙の本を読む機会を、ぜひ作ってあげたいと思いませんか。

本校では九月の読書月間に「わくわく読み聞かせフェス」と「先生方のおすすめの本」の紹介を行いました。「わくわく読み聞かせフェス」では、どの先生が来るか当日までお楽しみなので、どの子も新鮮な気持ちで本に向き合うことができました。「先生方のおすすめの本」では、おすすめの本の掲示を見て、図書館内の先生方のおすすめ本を手取る児童の姿が見られました。月に2回の読み聞かせDAYも、昨年より継続して行っています。



また、図書館内の季節に合わせた本や掲示物は、図書担当教諭、図書委員、学校図書館ボランティアの方々によって装飾され、休み時間や朝の時間に読み聞かせも行われています。PTAから寄贈された本は学級文庫として活用されています。今年は、図書委員が図書館キャラクターを制作したり、季節ごとの掲示も新しくなったりと、図書室を訪れてみると、たくさんの変化に気づくことができます。



このように、一人でも多くの大谷地っ子が本を手取るきっかけになるように、様々な角度から読書の啓発を行っています。電子書籍でも、紙の本でも、秋にのんびり本を読む…その読書時間を共有する原体験は、「変わらないもの」です。今一度、お子さんと共に寝る前の10分の読書時間をもってもらえたら幸いです。

参考文献：「本は、これから」（池澤夏樹 編）

参考文献：表示媒体が文章理解と記憶に及ぼす影響—電子書籍端末と紙媒体の比較—2012 小林良太・池内淳

10月の校外学習の様子

2日(木) ～3日(金)	5年生	一泊二日の行程で、滝野青少年山の家と芸術の森に行き、豊かな自然や芸術に触れました。
7日(火)	2年生	お店の秘密についてもっと深く知るために、もう一度校区のお店に行って、質問をしました。
7日(火) 15日(水) 16日(木)	4年生	防災センターに行き、暴風や地震の疑似体験から自然災害の恐ろしさを学ぶとともに、防災の必要性について考えました。
21日(火)	3年生	西山製麺を見学して、工場の工夫や働いている人の様子について学びました。
22日(水)	3年生	地区センターに行き、大谷地の地域に住んでいる人に、大谷地の良さについて質問をしました。
23日(木)	このみ4～6年	東白石中学校で、中学生と交流をしました。中学生に学校生活などについて質問をしました。
24日(金)	6年生	青少年科学館に行き、プラネタリウムや展示を見学して、理科の学習の理解を深めました。

